



令和5年2月28日

# かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

3月号

上瀬谷小学校教育目標

学び合う子

認め合う子

鍛え合う子

「日頃」を大切に～東日本大震災を教訓に～

校長 小林 京子

あの大きな震災から12年を迎えます。2011年3月11日午後2時46分。学校は、6時間目の中盤でした。教室で、これまでに感じたことのない大きな揺れを感じました。私は、当時、瀬谷区内の小学校で6年生の担任をしていました。教卓のノートやプリントが水平にとび、何が起きたのか茫然とする間に、私の指示よりも早く、子どもたちは、「地震だ！」と机の下にもぐりこみました。子どもたちの判断は、本当に素早く動きも無駄がありませんでした。とっさに机の下に隠れた子どもたち。「こわい!!」と叫んだ子もいましたが、多くの子は無言で揺れが収まるのを待ちました。いつもより長く大きな揺れが、ようやく少し収まり、職員室から指示がきたのは、いつもの避難ではなく、「教室待機」でした。間もなく、家庭への緊急連絡が流れたのですが、それよりも早く、子どもを引き取りに学校に来た保護者もいました。保護者も、私たち学校職員も、引き取り訓練でこういった時の対応は、頭に入っていましたので、子どもたちは、速やかに、保護者に引き取られました。

非常時には何がどうなるかわかりません。ただ、子どもたちが、自分たちで「地震だ！」と言って机の下にもぐったり、保護者がすぐに引き取りにきてくれたりしたこと、下校中だった低学年も、いつもの通学路で帰宅していたため迎えに出た保護者にすぐ引き取られたことなど、今思えば、職員室からの迅速な指示と日頃しみつけた「訓練」のおかげで子どもたちをすばやく確実に保護者の元に届けられたのだと思います。

こうした経験もあって、私は、上瀬谷小学校の避難訓練では、「日頃が大事」ということを繰り返し伝えてきました。学校の「日頃」とは、例えば、学校は「いつもの並び順」で整列できれば、「先生、〇〇さんがいません。」のように誰がいないかが分かります。大勢で動くときは、私語を慎めば指示が聞こえます。通学路をなぜ、保護者と共有しておかなければならないか、また、守らなくてはならないかは、こうした理由からです。東日本大震災の被災地の様子を見た海外の人々は、日本の「秩序・思いやり」というものに大変驚いたということは皆さんもご存じかと思います。順番に、落ち着いて。こういった心がけは、むしろ早くて、安全になることを皆が学校教育の中で覚えているからだと感じます。

学校は、子どもたちを1日の三分の一時間もお預かりしています。指示を聞くだけでなく自分で判断し「自分の命を自分で守る」。子どもたちの学校での日頃の学びが、ひいては家庭や地域の「日頃」にもつながっていくよう、育てていきたいと思っています。



令和4年度も終わりの月を迎えました。間もなく卒業式、修了式です。

末筆になりましたが、皆様の日頃の学校の教育活動へのご協力に心より感謝いたします。